

産衛だより

平成 27 年度第 1 回理事会議事録

日時：平成 27 年 4 月 18 日（土）13:00～17:00

場所：東京八重洲ホール

出席者：圓藤吟史（理事長）、東 敏昭（副理事長）、大久保靖司、川上憲人、五味秀穂、角田 透（以上業務執行理事）、五十嵐千代、大前和幸、萩野景規、加藤 元、岸 玲子、久保田昌詞、車谷典男、齊藤政彦、柴田英治、菅沼成文、菅原 保、住徳松子、諏訪園靖、笹島 茂、中川秀昭、野見山哲生、堀江正知、宮本俊明、村田勝敬、柳澤裕之、吉田貴彦（以上理事）
藤田雄三（監事）

欠席者：原田規章、山田誠二（以上理事）、實成文彦（監事）

次期理事候補者の出席：井上幸紀、土土 博、加藤貴彦、佐藤 広和、鈴木純子、廣部一彦、福島哲仁、森 晃爾

次期監事候補者の出席：加藤隆康

現理事 29 名のうち、出席者 27 名であることから、定款第 38 条により、理事会が成立していることを確認した。

出席者全員の自己紹介がなされた。

審議事項

- 平成 26 年度第 4 回理事会議事録の確認：川上総務担当理事承認された。
- 平成 27 年度の総会開催について：川上総務担当理事
平成 27 年度の総会開催の日時、場所、議案、進行方法等を決定した。
- 平成 26 年度事業報告案について：川上総務担当理事
平成 26 年度の実業報告案が説明され、承認された。また、監事による監査が行われ適正であったとの報告を受けたことが報告された。
- 平成 26 年度決算報告案について：角田経理担当理事
会計計算書類をもとに説明された。予算と決算が大きく異なった点について質問があり、産業看護部会の新制度への移行に伴う会員の更新登録料の増収等が原因となっていると回答された。その他、質疑応答のうえ決算報告案が承認された。また、会計についても監事による監査が完了していることが報告された。
- 委員会委員の交代について：川上総務担当理事
編集委員会の新委員として 2 名が推薦され、理事長より委嘱されることとなった。
政策法制度委員会の現委員に発行されている委嘱状の任期が委員会の内規と異なっていることから、次回委員会で任期について改めて検討し、次の理事会で報告することが伝えられた。
- 委員会新委員、部会新幹事の委嘱について：川上総務担当理事
産業医部会と、産業歯科保健部会の次期幹事の名簿が提示

され、確認された。理事長から委嘱される。

7. 政策法制度委員会からの提案について：岸理事

委員会内の 2 つのワーキンググループでそれぞれ検討し、まとめられた「産業現場におけるこれからの化学物質管理のあり方について（案）」と、「これからの職場のメンタルヘルスのあり方について（案）」の説明がなされ、さまざまな意見が寄せられた。委員会で再検討のうえ確定したものが学会誌及びホームページに掲載される。

8. 許容濃度等に関する委員会開催セミナーへの助成について：大前理事

許容濃度等の起案を担うことのできる人材の育成のため、有害要因に関する研究を行っている本学会会員の中堅・若手研究者向けに「労働環境許容値設定セミナー」の開催を予定していることが報告され、資金援助（約 30 万円）が求められた。検討の結果、許容濃度等に関する委員会への今年度の追加の助成が承認された。

9. 産業保健看護専門家制度について：五十嵐理事

規程（案）とその細則（案）が提出され、承認された。これらは総会の審議事項とする。総会で承認された後、産業保健看護専門制度準備委員会（非常設）を解散し、常設委員会として産業保健看護専門家制度委員会を発足する予定が述べられ、承認された。委員構成については別途審議する。

産業保健看護専門家制度の立ち上げに要する費用は、産業看護部会の資金から 1 千万円を充てること、運営事務局として外部業者を選定中であることが報告された。

10. 研究会の継続申請について：川上総務担当理事

継続を希望する 13 の研究会について、継続を検討した。放射線原子力保健研究会については、平成 26 年度の実業報告と会計報告が未提出であるため継続を保留とし、処遇については業務執行理事に一任することになった。残る 12 の研究会については継続が承認された。

11. 次回理事会日程について

今回は平成 27 年 8 月 2 日（日）、次々回は平成 27 年 10 月 4 日（日）の予定。

12. その他

- ①日本医学会連合役員候補者の推薦について：圓藤理事長
一般社団法人日本医学会連合の役員選出に際し、社会部に所属する 18 学会からは、副会長 1 名、理事 2 名、監事 1 名の候補者を推薦することができるため、当学会からは副会長と理事の各 1 名を推薦したいと述べられた。
- ②中央労働災害防止協会 緑十字賞および顕功賞の候補推薦について：川上総務担当理事
本年度も候補者を推薦することとした。

報告事項

- 第 88 回日本産業衛生学会準備状況報告：車谷理事
準備は順調に進んでいることが伝えられた。
- 第 89 回日本産業衛生学会準備状況報告：村田理事、福島企画運営委員長
企画内容の検討等、準備を進めていることが伝えられた。
テーマ：「次世代につなぐ産業衛生学の研究と実践」

- 会期：平成 28 年 5 月 24 日（火）～ 27 日（金）
会場：福島県文化センター他
3. 第 90 回日本産業衛生学会準備状況報告：柳澤理事
学会概要の説明があり、今後、企画内容の検討を進めていくことが伝えられた。
テーマ：「産業保健近未来図」
会期：平成 28 年 5 月 11 日（木）～ 13 日（土）
会場：東京ビッグサイト TFT ビル
4. 第 24 回産業医・産業看護全国協議会会計報告：中川理事
最終の収支報告がなされた。決算は黒字となった。
5. 第 25 回産業医・産業看護全国協議会準備状況報告：荻野理事
主な企画内容が決まり、準備は順調に進んでいることが報告された。
6. 第 26 回産業医・産業看護全国協議会準備状況報告：久保田理事
企画運営委員長に久保田昌詞氏、実行委員長に中西一郎氏が決定したことが報告された。平成 28 年 9 月に京都で開催予定。
7. ACOH2014 会計報告：東理事
最終の収支報告がなされた。決算は黒字となった。
8. 厚生労働省労働衛生課との意見交換会について：大久保理事
平成 27 年 2 月 21 日に行われた厚生労働省労働衛生課との意見交換会で挙げられた話題についての報告があった。前回の意見交換の際に厚生労働省から依頼を受けてとりまとめた「近未来の産業衛生に係る研究課題検討結果報告」と、「主治医から産業医への情報提供の必要性について」を提供したことが報告された。この他、ストレスチェック制度についての質疑応答の内容や、厚生労働科学研究費の制度の見直しについての報告を受けたこと等が伝えられた。
9. 4 部会長会議報告：加藤理事
産業医・産業看護全国協議会に、第 26 回より産業衛生技術部会が共催に加わることに伴う名称変更について、各部会で検討した結果、「日本産業衛生学会実践全国協議会」と「日本産業衛生学会全国協議会」の 2 案が候補として提示され、意見交換がなされた。
10. 産業医部会報告：斉藤理事
産業医の役割が重要視されるストレスチェックについて、部会として前向きに活用していきたいという意向が述べられた。
11. 産業看護部会報告：住徳理事
産業看護講座基礎コース後期の受講者のアンケート結果について説明された。産業保健看護専門家制度に向けての移行措置や事務局運営などの準備が進められていることが述べられた。
12. 産業衛生技術部会報告：柴田理事
第 25 回産業医・産業看護全国協議会と同時開催の第 24 回産業技術部会大会の開催計画と、第 88 回日本産業衛生学会時の部会関係行事について報告された。
13. 産業歯科保健部会報告：加藤理事
関東地方会の例会と兼ねて後期研修会が実施されたことが報告された。事業予定として、第 88 回日本産業衛生学会と、第 25 回産業医・産業看護全国協議会の内容について報告された。
14. 専門医制度委員会報告：大久保理事
登録者数（指導医 367 名 専門医 237 名 専攻医 159 名）が報告された。
15. 編集委員会報告：野見山理事
2014 年優秀論文賞 3 件の決定が報告された。また、今年度から優秀査読者を選出することとしたことが報告された。今年度の受賞者は 5 名。オンラインジャーナル化についての検討状況が報告された。
16. 生涯教育委員会報告：宮本理事
投稿された 20 題の良好実践事例（GPS）の中からベスト GP 賞 1 題、GP 奨励賞 1 題が決定したことが報告された。
17. 倫理審査委員会報告：堀江理事
文部科学省及び厚生労働省が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を制定したことを受け、産業保健専門職が研究に携わる際に取りべき立場や行動についての考え方を検討していることが報告された。学会の指針（「産業保健専門職の倫理指針」及び「産業保健研究倫理ガイダンス」）も見直している。
18. 利益相反に関する委員会報告：柴田理事
現在策定中の社会医学系 6 学会の共通の利益相反マネジメントポリシー（案）について紹介され、今後の予定が報告された。
19. 中央選挙管理委員会報告：野見山理事
代議員による監事候補者選挙が行われた結果が報告された。
20. 担当理事報告：各担当
・専門医制度についての意見交換：大久保理事
平成 27 年 2 月 2 日、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本衛生学会、日本産業衛生学会の 4 学会で集まり、社会医学系統の専門医制度について意見交換をしたことが報告された。今後も協働する予定である。
21. 公的委員会等情報報告：各担当
・ストレスチェック制度について：川上理事
厚生労働省より改正労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック制度」の具体的な運用方法を定めた省令、告示、指針が公表されたことが紹介された。
22. 学会名簿使用許可報告：川上総務担当理事
産業看護部会の部会員名簿の使用許可 2 件の申請があり、許可したことが報告された。
五十嵐理事より、修士論文作成のための産業看護部会の名簿使用許可申請が増え、部会員の負担になっていることから、部会内で一定のルール化を検討したことが報告された。次回の理事会にて内容を報告する。
23. 研究会の世話人交代について：川上総務担当理事
アルコール問題研究会の代表世話人が変更になったことが報告された。

24. 会員の状況：川上総務担当理事
正会員数：7,544 人（平成 27 年 4 月 7 日現在）
25. 協賛・後援等：川上総務担当理事
以下の件が報告された。
- ・第 42 回日本毒性学会学術年会（協賛）
 - ・第 21 回第 1 種 ME 技術実力検定試験および講習会（協賛）
 - ・平成 27 年度医療機器安全基礎講習会（第 37 回 ME 技術講習会）（協賛）
 - ・健康開発科学研究会主催「2015 フォーラム」（後援）

平成 27 年度総会議事録

日時：平成 27 年 5 月 14 日（木）9：00～11：00
場所：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル 地下 2 階
コングレコンベンションセンター A 会場

議長：車谷典男
副議長：福島哲仁

1. 開会
日本産業衛生学会平成 27 年度総会の開会宣言が川上憲人総務担当理事からあった。
2. 第 88 回日本産業衛生学会企画運営委員長挨拶
車谷典男企画運営委員長から学会開催にあたっての挨拶があった。
3. 物故会員報告
平成 26 年 5 月から平成 27 年 5 月までの物故会員として、山口郁夫氏、安藤幸彦氏、鶴飼 恒氏、岡部英明氏、神長 善氏、近藤東郎氏（名誉会員）、齊藤 一氏（名誉会員）、佐々木喬氏、堀 三郎氏、青木 智氏、伊藤光保氏、由利卓也氏、吉田 勉氏、新谷善典氏、岡本愛子氏、忠津佐和代氏、以上 16 名の会員の逝去報告があり、全員で黙祷をした。
4. 理事長挨拶
圓藤吟史理事長から総会にあたっての挨拶があった。
6. 議長選出
川上総務担当理事から、議長選出についての意見を会場に求めたが、特になく、同理事から、車谷典男企画運営委員長を議長として選出することが提案され承認された。議長席についた車谷典男議長より、副議長として福島哲仁氏（東北地方会）の推薦があり、承認された。
6. 議事録署名人選出
議事録署名人を慣例に従い議長が指名することが承認され、車谷典男議長により、大脇多美代氏（近畿地方会）と上原新一郎氏（近畿地方会）が指名された。
7. 総会の成立
議長から、総会の成立の有無について川上総務担当理事に返答を求めた。川上総務担当理事から、代議員総数 601 名（うち 1 名の代議員が退会）へ封書を用いて開催の通知を行い、471 名（78.5%）から回答を受けたこと、うち総会出席者は 147 名、指名のある委任状提出者は 309 名、合計

すると 456 名で代議員の過半数を超えており、定款第 21 条により総会が成立していると報告された。これにより総会が成立していることが確認された。

審議事項

第 1 号議案 平成 26 年度決算報告案

角田 透経理担当理事から平成 26 年度事業報告について、平成 27 年度総会資料（公益社団法人日本産業衛生学会作成：以下、単に資料と略記）の 64 頁から 72 頁をもとに提案があった。引き続き藤田雄三監事より監査報告がなされ、實成文彦監事、藤田雄三監事の両名が、杉本賢司公認会計士立会いのもとに監査を行ったこと、その結果、収支決算は適正であり、理事の職務執行も適正かつ効率的であると認められたことが報告された（資料 73 頁）。以上に対する質問も異議もなく、第 1 号議案は可決された。

第 2 号議案 名誉会員の推薦

川上総務担当理事から、資料 62 頁に基づいて、名誉会員として堀口俊一氏（独立行政法人労働者健康福祉機構、近畿地方会）、藤木幸雄氏（松下産業衛生科学センター、近畿地方会）、徳永力雄氏（京都府在住、近畿地方会）、住野公昭氏（中央労働災害防止協会、近畿地方会）を推薦するとの提案があった。また以下に示す受賞者の報告があった（資料 62 頁から 63 頁）。質問・異議はなく、第 2 号議案は可決された。

学会賞：大前和幸先生

奨励賞：久保達彦先生、佐藤裕司先生、井上まり子先生

功労賞：的場恒孝先生

第 3 号議案 役員の選任

野見山哲生中央選挙管理委員会委員長より、資料 78 頁に基づいて、役員選挙の結果が下記のように報告され、理事および監事として選任することの承認提案があった。質問・異議はなく理事および監事は報告どおり選任された。

理事候補者：五十嵐千代、井上幸紀、宇土 博、圓藤吟史、大久保靖司、大前和幸、荻野景規、加藤 元、加藤貴彦、川上憲人、久保田昌詞、五味秀穂、齊藤政彦、佐藤広和、柴田英治、菅沼成文、菅原 保、鈴木純子、住徳松子、諏訪園靖、笹島 茂、角田 透、中川秀昭、野見山哲生、廣部一彦、福島哲仁、宮本俊明、森 晃爾、柳澤裕之、吉田貴彦

監事候補者：加藤隆康、東 敏昭

第 4 号議案 産業保健看護専門家制度

産業保健看護専門家制度準備委員会委員長である五十嵐千代理事から、産業保健看護専門家制度について、資料 17 頁と当日配布資料（日本産業衛生学会産業保健看護専門家制度に関わる規程（案）：全 12 頁）を用いて説明と提案があった。質問・異議は特になく、同制度を本年度に発足させること、同規程案を修正なく規程とすること、常設の産業保健看護専門家制度委員会を設置することが、それぞれ承認された。

報告事項

1. 機関誌の発行

堤 明純編集委員長から、資料 10 頁と 11 頁に基づき、産業衛生学雑誌 56 巻 1～6 号の刊行は順調で計 20 編が掲載されたこと、Journal of Occupational Health (JOH) Vol. 56 No. 1～6 の刊行も順調で計 61 編が掲載されたこと、日本学術振興会平成 26 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）とし 490 万円の助成を受けたこと、JOH のインパクトファクター（2013）は 1.096 であったことの報告があった。

2. 平成 26 年度事業報告

川上総務担当理事から、資料の主として 2 頁と 3 頁に基づいて（詳細は 4 頁から 61 頁に記述）、公益目的事業として「産業衛生に関する学術集会、講演会、研修会等の開催」等の 10 項目にわたる事業を実施したこと、また法人運営事業として学会賞等を授与、名誉会員を推薦したことと役員改選を行ったことの、報告があった。会場から特に意見はなかった。

3. 平成 27 年度事業計画

川上総務担当理事から、資料 74 頁と 75 頁に基づいて、公益目的事業として「産業衛生に関する学術集会、講演会、研修会等の開催」等 8 項目にわたる事業を計画していること、また法人運営事業として学会賞等受賞者を推挙する予定であることの、報告があった。会場から特に意見はなかった。

4. 平成 27 年度予算

角田 透経理担当理事から、資料 76 頁と 77 頁の収支予算書に基づいて、平成 27 年 3 月 1 日から同 28 年 2 月 29 日の収支予算について説明があった。会場から特に意見はなかった。

5. 役員候補者選挙結果

すでに第 3 号議案の時に、資料 78 頁に基づいて報告済みとなっていたため、そのことを野見山哲生中央選挙管理委員会委員長にかわって、議長から報告した。

6. 第 89 回日本産業衛生学会開催準備状況

福島哲仁企画運営委員長から、スライドを用いて、平成 28 年 5 月 24 日から同 27 日にかけて福島県文化センターを主会場として開催すること、特別プログラムの準備等を開始しているとの報告があった。

7. 第 90 回日本産業衛生学会開催地について

川上総務担当理事より、平成 29 年度に開催される第 90 回日本産業衛生学会開催地について、関東地方会が担当となることが理事会で承認されていることが報告された。会場から特に意見はなかった。

8. 第 25 回産業医・産業看護全国協議会開催準備状況

山本真二企画運営委員長から、スライドを用いて、平成 27 年 9 月 16 日から 19 日にかけて、周南市文化会館を主会場として開催すること、準備はほぼ完了していることの

報告があった。

9. 第 26 回産業医・産業看護全国協議会開催地について

川上総務担当理事より、平成 29 年度に開催される第 26 回産業医・産業看護全国協議会は近畿地方会が担当となることが理事会では承認されていることが報告された。この回から産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会の 4 部会合同開催となり、四部会長会議結果に基づき、名称は「日本産業衛生学会全国協議会」とする予定であることが報告された。

10. 第 24 回産業衛生技術部会大会準備状況

加藤隆康産業衛生技術部会長から、第 24 回産業衛生技術部会大会は第 25 回産業医・産業看護全国協議会と合同開催で周南市にて開催すること、この大会は今年度で最後となり、来年度以降は全国協議会の中で活動することが報告された。

11. 許容濃度等に関する提案

武林 亨許容濃度等に関する委員会委員長から、スライドを用いて（資料は 11 頁と 12 頁）、委員会を 4 回開催したこと、許容濃度等の新設・改訂について提案すること、継続審議中の主な事項について説明があった。

12. その他

- 1) 圓藤理事長から、昨年度の総会で役員選挙における電子投票システムの不備と地方会における選挙方法の問題点の指摘があったことを踏まえて、藤田監事、實成監事および野見山中央選挙管理委員長を中心に検討した結果をそれぞれから報告させるとの発言があった。これを受けて、先ず藤田監事から「連記制については各地方会でよく検討すること」「関東地方会の選挙結果開示の問題は電子投票システムの不備と選挙に係る者の役割と権限が不明確であったことは明らかであったと考えられること」「すなわち結果の閲覧権限が不明瞭であったこと」「これらの改善を検討するよう業務執行理事に指示したこと」との発言があった。続いて、野見山中央選挙管理委員長から、監事の指示を受けて「改善をして今年度の電子投票を実施した」こと「連記制についてはさらに検討したい」との発言があった。以上の報告に対する質問や異議はなく、報告が了解された。

- 2) 川上総務担当理事から、編集委員会による産業衛生学会誌優秀論文賞：岡崎浩子先生、松本悠貴先生、堀田裕司先生、編集委員会による優秀査読者賞（新設）：井上彰臣先生、久保智英先生、熊谷信二先生、宮内博幸先生、城 憲秀先生、生涯教育委員会によるベスト GP 賞：幸地 勇先生と鶴岡寛子先生（連名）、GP 奨励賞：西川敏裕先生がそれぞれ選考されていることの報告があった。

予定していた審議事項、報告事項を終了したため、会場からの意見、質問を求めたが特になく、議長・副議長の任が解かれ、総会は閉会となった。

平成 27 年度臨時理事会議事録

日時：平成 27 年 5 月 14 日（木）11：30～12：30

場所：グランフロント大阪 ナレッジキャピタル コングレ
ンベンションセンター F 会場

出席者：五十嵐千代，井上幸紀，宇土 博，圓藤吟史，大久保
靖司，大前和幸，荻野景規，加藤 元，加藤貴彦，川
上憲人，久保田昌詞，齊藤政彦，佐藤広和，柴田英治，
菅沼成文，菅原 保，鈴木純子，住徳松子，諏訪園靖，
笠島 茂，角田 透，中川秀昭，野見山哲生，廣部一
彦，福島哲仁，宮本俊明，森 見爾，柳澤裕之，吉田
貴彦（以上理事）

加藤隆康，東 敏昭（監事）

欠席者：五味秀穂（理事）

理事出席者 29 名であることから，定款第 38 条により，理事
会が成立していることを確認した。

審議事項

1. 理事長の選出について：川上理事

任期満了に伴う理事長の選出について，選出方法を検討し
たのち，自薦，他薦により候補者を募った。大前理事より圓
藤理事が推薦され，異議はなく再任された。圓藤理事は理事
長に就任することを承諾した。

2. 業務執行理事の選出について：圓藤理事長

圓藤理事長より，業務執行理事を下記のように選出するこ
とが提案され，異議はなく選定された。

副理事長：川上憲人理事

総務担当理事：大久保靖司理事，森 見爾理事

経理担当理事：五味秀穂理事，宮本俊明理事

理事の役割分担についても提案され，一部変更のうえ承認
された。

3. 委員会委員の追加について：齊藤理事

政策法制度委員会の委員追加として，中川秀昭氏，菅原保
氏が推薦され，理事長より委嘱されることとなった。政策法
制度委員会の今期の任期は内規のとおり 3 年とすることが確
認された。

4. 産業保健看護専門家制度委員会について：五十嵐理事

総会にて産業保健看護専門家制度に係る規程が承認された

ことを受け，平成 27 年 5 月 14 日付けで，産業保健看護専門
制度準備委員会（非常設）を解散し，常設の委員会として産
業看護専門家制度委員会を新設することとした。五十嵐理事
より委員候補者が提示され，承認された。委員長は委員の互
選により決定する。

5. 産業衛生技術部会の幹事について：柴田理事

産業衛生技術部会の新期の幹事が推薦された。学会の監事
が部会長を兼務することの可否について意見が出され，産業
衛生技術部会の業務に関しては，もう 1 名の監事が監査する
こととした。部会内で監事と幹事が兼務することとなっている
点は，部会に見直しを求めることとし，その他の幹事は承
認し，理事長より委嘱することとなった。

6. 産業看護部会の幹事について：五十嵐理事

産業看護部会の新期の幹事が推薦され，理事長より委嘱す
ることとなった。

なお，各部会において，監事の有無，位置づけが異なって
いるため，今後は 4 部会で統一を検討することとなった。

7. 社会医学領域の専門医制度に関する意見書の提出につい て：大久保理事

社会医学領域の専門医制度を構築するために，関係各所で
意見交換を重ねた結果，一般社団法人日本専門医機構に意見
書を提出することになったことが報告された。原案として作
成された意見書案の修正案を各学会が提出することになって
おり，専門医制度委員会で修正した案が提示された。審議の
うへ，同機構への意見書提出に参加することが承認された。
この後の意見書の修正内容については専門医制度委員長も
しくは理事長に一任することとした。

8. その他

・平成 27 年度第 4 回理事会は，平成 28 年 1 月 9 日（土）の
予定

・日本医学会連合の役員選出について：圓藤理事長

日本医学会連合の役員候補者として，日本産業衛生学会
からは，副会長候補に岸 玲子氏，理事候補に東 敏昭氏
を推薦することとした。

・会費未納退会者の再入会について：大久保理事

会費未納のため退会扱いになった会員が，再入会する際
の対応について今後検討することとし，意見を出し合っ
た。

日本産業衛生学会 中小企業安全衛生研究会 第 49 回全国集会 (第二報)

日 時：平成 27 年 12 月 5 日 (土) 10:00 ~ 16:00

会 場：新潟県医師会館 3 階 大講堂 (新潟市中央区医学町通 2 番町 13 番地)

【路線バス or BRT (新バスシステム)】 新潟駅万代口発 市役所前下車約 15 分

【タクシー】 新潟駅万代口から約 10 分

主 催：日本産業衛生学会 中小企業安全衛生研究会 (代表世話人 柴田英治 担当世話人 中平浩人)

共 催：新潟県医師会, 新潟産業保健総合支援センター

後 援：新潟産業保健研究会

参加費：無料 但し, 日医認定産業医研修単位希望者のみ下記の通り

・特別講演：生涯研修 (専門) 1.5 単位 1,000 円

・シンポジウム：生涯研修 (専門) 1.5 単位 1,000 円

一般演題申込：抄録 (A4 サイズ 1 頁 形式自由) を下記事務局まで送付ください。

平成 27 年 11 月 4 日 (水) をメ切とします。

プログラム：

【一般演題】 (演題募集中) 10:00 ~ 12:00

【特別講演】 13:00 ~ 14:30

「中小企業の現場における生活歯援プログラムモデル事業の展開」

講 師 佐藤 徹 ((社)新潟県歯科医師会顧問 産業歯科医師)

山田 智子 ((公財)新潟県歯科保健協会 事務局長)

座 長 (依頼中)

生活歯援プログラムは, 新しい成人歯科健診として, 受診された方の生活習慣など問題点を見つけ, 一緒に改善していく「一次予防」が大きなポイントです。歯科と全身の健康との関係が多くの研究から明らかになりつつある現在, 疾病と労働損失の観点のみならず, 健康寿命延伸のために働く人々の口腔健康管理は重要です。本プログラムの解説と国の制度展望を踏まえ, 中小企業におけるモデル事業の成果をお話しします。

日本医師会認定産業医単位 生涯研修 (専門) 1.5 単位 (予定)

【シンポジウム】 14:30 ~ 16:00

「産業保健総合支援センターと中小企業の産業保健活動

—労働衛生三管理からストレスチェックまで—

シンポジスト 江村 文雄 (十日町地域産業保健センター コーディネーター)

保 刈 幸 (新潟県産業看護部会 会長) 予定

岡田 秀子 (新潟県農業団体健康保険組合 保健師)

野口 忠司 (新潟産業保健総合支援センター 副所長)

司 会 (依頼中)

中小事業の産業保健活動を如何に推進していくかは, 我が国の産業衛生の大きな課題です。法的整備を待つ前に, できるだけ早く有効な施策が実行されることが求められています。新潟県では, 産業保健総合支援センター, 地域産業保健センター, 県医師会, 各郡市医師会および新潟産業保健研究会が連携し合い, 県内企業のほとんどを占める中小企業の産業保健に当たっています。労働衛生の基本である三管理から新たに開始されるストレスチェックへの対応まで, 産業保健の現場で活躍されている方々に活動を報告いただきます。

日本医師会認定産業医単位 生涯研修 (専門) 1.5 単位 (予定)

お問い合わせ先

日本産業衛生学会 中小企業安全衛生研究会 第 49 回全国集会事務局

中平 浩人 新潟青陵大学大学院 看護学研究科

〒 951-8121 新潟市中央区水道町 1 丁目 5939 番地

TEL & FAX : 025-266-9398 E-mail : nkdr@n-seiryu.ac.jp

第 20 回 産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ

主催 日本産業衛生学会 産業医部会
後援 財団法人労働衛生会館

企画運営委員長 浜口伝博
実行委員長 小島玲子

本コースは、産業医の実務に役に立つタイムリーな話題の提供を通して実践的な産業医技能の獲得を目指す研修プログラムです。受講者からは高い評価をいただいております。参加された受講者間のネットワークも広がっています。参加は、専属産業医、嘱託産業医を問いません。意欲のある先生方のご参加をお待ちしています。

1. 研修テーマ：企業の人財戦略に産業医はどうかかわるか？

～ CHO (Chief Health Officer) への第一歩～

2. 開催日：2016年2月13日(土)～2月14日(日)

3. 会場：MELONDIA あざみ野 (あざみ野駅徒歩5分)

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川1-1-9

Tel: 045-909-1790 Fax: 045-909-1789

https://www.yutolife.com/user/mrs/azamino_dm0912/map.html

あざみ野駅 (横浜市営地下鉄), あざみ野駅 (東急田園都市線)

羽田空港より隣駅「たまプラーザ (田園都市線)」駅までの直行バスもあります。

4. 内容

— 1 日目 (2/13) — 13:00-18:00

- | | |
|--|-------|
| I. 講演：健康経営と産業医との協業を展望する | 13:00 |
| 経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 課長 江崎禎英 | |
| II. シンポジウム：労働災害医学から産業健康医学への展開 | 14:15 |
| 1. 「健康経営の基盤となる体制、評価指標、プログラム」 | |
| 産業医科大学産業保健経営学研究室教授 森 晃爾 | |
| 2. 「産業保健から人財管理を考える (1) ～経営管理と健康管理の両立～」 | |
| 大阪ガスグループ 統括産業医 (健康経営研究会理事長) 岡田邦夫 | |
| 3. 「産業保健から人財管理を考える (2)」 | |
| 旭化成(株) 統括産業医 小山一郎 | |
| III. 討議 (課題と目標の整理) | 16:00 |
| • グループワーク | |
| • パネルディスカッション / パネラーとフロアーとのセッション | |
| 情報交換会 (懇親会) | 18:30 |

— 2 日目 (2/14) — 9:00-12:00

- | | |
|--|-------|
| IV. 講演：健康経営とメンタルヘルス対策 (ストレスチェックの活用を含む) | 9:00 |
| 大阪ガスグループ 統括産業医 (健康経営研究会理事長) 岡田邦夫 | |
| V. 討議 | 10:30 |
| • メンタルヘルス対策の一環としてのストレスチェック活用術 | |
| • 健康経営視点からの評価指標について | |

5. 募集人数：50名

6. 受講料：日本産業衛生学会産業医部会員 20,000円 (2日間コース)

日本産業衛生学会会員 (医師) 25,000円 (2日間コース)

7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。

8. 申込方法等：次ページ「参加申込書」を作成し FAX してください。

1) 資格：産業医部会員の有無 を選択してください。

2) 連絡先を記載：氏名, 住所 (参加確定後に書類等の送付先になります), 電話番号 / FAX / メールアドレス (すべてご記入下さい。以降の事務連絡先となります)

3) 宿泊：研修会場にて宿泊することが出来ます (個数限定のため先着受付となります)。

シングル：¥ 10,000 (税込, 朝食付き, 全室禁煙). ご希望の方は「宿泊希望」をご記入下さい.

4) 情報交換会 (懇親会): 初日プログラム終了後, パーティ形式の懇親会を行います. 担当講師, 運営スタッフも参加しますので議論や懇親を深めることができます. 参加ご希望の有無をご記載下さい. 参加費用は ¥ 5,000 (コース受講料とは別).

5) 申し込み先事務局: FAX でお申し込み下さい.

「(株)ヒューマン・リサーチ内 産業医プロフェッショナルコース事務局」

FAX 03-3358-4002 〒160-0011 東京都新宿区若葉 2-5-16 向井ビル 3F (株)ヒューマン・リサーチ TEL03-3358-4001

9. 応募の開始と締切

・応募開始 (先着順受付とさせていただきますのでご了承ください)

産業医部会員 2015年10月30日(金)9:00から

非部会員 (医師かつ学会員が必要) 2015年11月6日(金)9:00から

・応募締切 (部会員 / 非部会員を問わず) 2015年11月20日(金)17:00まで

ア) 応募締切後, 参加決定者には事務局より受講料振込み等の必要書類を郵送致します.

イ) お振込みいただく金額は, 受講料, 情報交換会費 (希望者), 宿泊費 (希望者) となります.

ウ) 2015年11月27日(金)を過ぎても事務局から連絡がない場合は, 事務局までお問い合わせ下さい.

10. 補 足

1) 産業医プロフェッショナルコースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています. 本コースは専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されておりますので, 受講実績は研修単位 (専門医の場合は指導医への認定単位) として認可されます.

2) 産業医プロフェッショナルコースは, 日本医師会認定産業医単位の発行はしていませんのでご注意ください.

..... (切り取り)

日本産業衛生学会
産業医 P コース事務局行
(FAX : 03-3358-4002)

申込日 月 日

日本産業衛生学会 産業医部会
産業医プロフェッショナルコース参加申込書

コース名	企業の人財戦略に産業医はどうかかわるか？ ～ CHO (Chief Health Officer) への第一歩～
氏 名	フリガナ ()
産業医部会員の 有無	① 産業医部会員 (地方会所属) ② 非産業医部会員
連絡先 (書類 等の送り先)	(自宅 ・ 勤務先) 〒 - 日中つながる番号をお書きください。 TEL : FAX : わかりやすくお書きください。 e-mail :
情報交換会 (懇親会)	① 参加する ② 参加しない
宿泊希望 (研修会場内)	① 希望する ② 希望しない
備考 (費用)	1. 受講料 ・ 産業医部会員 20,000 円 ・ 非部会員 (学会員かつ医師) 25,000 円 2. 情報交換会 (懇親会) 5,000 円 (希望者のみ) 3. 宿泊 (朝食付き、シングル、全室禁煙) 10,000 円 (希望者のみ)
連絡事項	

第 89 回日本産業衛生学会 (第 3 報)

第 89 回日本産業衛生学会 企画運営委員長 福島哲仁

※ 詳細は、第 89 回日本産業衛生学会ホームページ (<http://convention.jtbcom.co.jp/js089/>) に順次掲載します。

1. 会 期：2016 年 5 月 24 日 (火)～27 日 (木)
2. 会 場：福島県文化センター (福島県福島市春日町 5-54)
 福島市音楽堂 (福島県福島市入江町 1-1)
 福島市勤労青少年ホーム (同上)
 福島県働く婦人の家 (同上)
3. 企画運営委員長：福島哲仁 (福島県立医科大学医学部 衛生学・予防医学講座教授)
4. メインテーマ：次世代につなぐ産業衛生学の研究と実践
5. 企画概要 (予定)
 - 1) メインシンポジウム
 - A. 次世代につなぐ産業衛生学の研究
 座長：村田勝敬 (秋田大学), 大前和幸 (慶応義塾大学)
 - B. 次世代につなぐ産業衛生学の実践
 座長：菅原 保 (本間病院), 柴田英治 (愛知医科大学)
 - 2) 特別講演
 - A. Joachim Schüz (Head, Section of Environmental and Radiation, International Agency for Research on Cancer)
 演題：The cancer burden related to occupational and environmental carcinogens and open research questions
 - B. 菊地臣一 (福島県立医科大学 理事長兼学長)
 演題：大震災・原発事故の危機下における大学の使命・トップの責任
 その他、教育講演、シンポジウムなどの特別プログラムと、一般演題 (ポスターおよび口演) から構成します。
6. 参加登録

事前登録は 2015 年 11 月 16 日 (月)～2016 年 3 月 7 日 (月) まで、第 89 回日本産業衛生学会ホームページ上で受け付けます。

 - ① 学会参加費
 - 学会員 : 事前登録：8,000 円
 当日登録：10,000 円
 - 非学会員：事前登録：9,000 円
 当日登録：10,000 円
 - 学生・大学院生：事前登録：6,000 円
 当日登録：8,000 円

※事前登録の締切以降は当日受付でお支払いください。
 ※事前登録をされた方には、締切後に参加証を郵送いたします。
 - ② 出題費

1 題につき 2,000 円。
 筆頭発表者が必ず学会参加費とともにお支払い下さい。
 - ③ 懇親会費 (学会員, 非学会員共通)

事前登録：9,000 円 当日登録：10,000 円
 学生・大学院生：8,000 円
 - ④ 託児室

学会期間中、会場内に託児室を設置予定です。受け入れ条件等の詳細、申し込みについては後日ホームページ上でご案内いたします。
7. 演題申込および抄録原稿受付

一般演題の申込および抄録原稿の受付は学会ホームページで行います。なお、筆頭発表者は、演題申込締切日

までに事前参加登録と出題費を含む支払いを完了して下さい。

- ① 演題申込および抄録原稿受付の期間
2015年11月16日(月)から2015年12月10日(木)午前11時まで
- ② 申込方法
第89回日本産業衛生学会ホームページからのオンライン申込です。
- ③ 発表形式
一般演題は口演発表またはポスター発表として、プログラム委員会が演題の採否を決定します。口演かポスターかは演題申込時に選択していただきますが、最終決定はプログラム委員会に一任ください。採否および発表形式の通知は2016年2月下旬を予定しています。
- ④ 一般演題の申込は、筆頭発表者1人につき1演題とさせていただきます。
- ⑤ 筆頭発表者は日本産業衛生学会の会員であることが必要です。会員でない方は速やかに入会手続きを済ませて下さい。なお、入会手続きについては日本産業衛生学会のホームページ(<http://www.sanei.or.jp/>)をご覧ください。
- ⑥ 40歳以下の筆頭発表者から、若手優秀演題賞を若干名選考予定です。抄録により、プログラム委員が選考し、受賞者は懇親会にて表彰いたします。

8. 懇親会(第2報の案内から、時間および会場が変更となりました)

日時: 2016年5月26日(木) 18:30開場, 19:00開宴予定

会場: ザ・セレクトン福島3階 安達太良I・II

〒960-8068 福島県福島市太田町13-73

9. 研修単位の認定

- ① シンポジウムや講演に対して日本医師会認定産業医制度による単位認定、日本歯科医師会生涯研修の単位認定、日本産業衛生学会産業看護部会「産業保健看護専門家制度」継続研修の単位認定を行う予定です。
- ② 日本医師会認定産業医制度による産業医学研修会として、学会に参加される人の中から希望者には、以下の実地研修(事業所見学)を実施する予定です。
実地研修の参加申し込みは、参加登録が開始される11月16日(月)より開始します。希望者多数の場合は先着順とさせていただきます。参加費として別途実費(バス代、他)をいただきます。

日時: 2016年5月24日(火)

場所: 東京電力福島第一原子力発電所

東北電力原町火力発電所

10. 委員会、部会、研究会等の申込

会期中に委員会、部会、研究会等の会場を学会会場内にご用意いたします。第89回日本産業衛生学会のホームページにて申込方法をご案内します。締切後、学会企画運営委員会で日時・部屋割りの調整をいたしますが、ご希望に添えない場合もございますのでご了承ください。

11. 今後のスケジュール概要(予定)

演題申込期間: 2015年11月16日(月)~2015年12月10日(木)

委員会・研究会等申込期間: 2015年11月16日(月)~2015年12月10日(木)

ランチョンセミナー申込締切: 2015年12月11日(金)

広告申込締切: 2016年2月15日(月)

機器展示・書籍展示申込締切: 2016年2月15日(月)

学会参加・懇親会事前登録締切: 2016年3月7日(月)

12. 連絡先

(1) 学会事務局

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地

福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座内

「第89回日本産業衛生学会」学会事務局

(2) 運営事務局

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-4-1 明治安田生命仙台ビル4F

株式会社JTB東北 MICEセンター (法人営業仙台支店内)

TEL: 022-263-6716 FAX: 022-263-6693

E-mail: js0h89@th.jtb.jp

正誤表

産業衛生学雑誌 57 卷 4 号

許容濃度等の勧告 (2015)

149 ページ

表 I-1. の ジクロロメタン

誤: (発がん性分類) 2B → 正: 2A[†]

154 ページ

表 III-1. の Group2B

誤: ダイレクトブラウン 95 → 正: CI ダイレクトブラウン 95

誤: ダイレクトブラック 38 → 正: CI ダイレクトブラック 38

誤: ダイレクトブルー 6 → 正: CI ダイレクトブルー 6

許容濃度の暫定値 (2015) の提案理由

182 ページ 右段

(誤)

1,4-ジクロロ-2-ブテン

 $C_4H_6Cl_2$, $ClCH_2-CH=CH-CH_2Cl$

[CAS No. 764-41-0]

許容濃度 0.005 ppm

発がん性分類 第2群 B

(正)

1,4-ジクロロ-2-ブテン

 $C_4H_6Cl_2$, $ClCH_2-CH=CH-CH_2Cl$

[CAS No. 764-41-0]

許容濃度 0.002 ppm

発がん性分類 第2群 B

183 ページ 右段

6. 勧告の履歴 2015 年度 (新規提案)

誤: 許容濃度 0.005 ppm

正: 許容濃度 0.002 ppm

192 ページ 右段下から 4 行目

「Takebayashi *et al.*²⁸⁾ はビスコース・レーヨン男子従業員 432 名と男子非曝露者 345 名の空腹時血清中各種ホルモン (テストステロン・脳下垂体関連ホルモンを含む) の分析を行い、曝露群で甲状腺ホルモン T4 が有意 ($p < 0.05$) に低値 (ただし T3 には有意差ナシ) であったが、その他の項目では 両群間に有意差を認めなかった。」

誤: 345 名 → 正: 402 名

193 ページ 左段 5-6 行目

「Meyer *et al.*⁴⁰⁾ は < 2 ppm, 2-10, > 10 ppm の二硫化炭素に曝露 (作業内容不明) を受けている作業員 27, 22, 19 名と非曝露者 89 名の精液 (48 時間禁欲後) 調査を行い、精液量・精子数のいずれにも有意差を認めなかった。」

誤: 27, 22, 19 名 → 正: 22, 27, 18 名

投稿規定

(2014 年 11 月 1 日改訂)

産業衛生学雑誌は、Journal of Occupational Health (JOH) とともに日本産業衛生学会の機関誌で、学会員による研究成果の発表、学会員同士の情報交換を行う和文誌である。学術・実務の両面にわたり、わが国の産業衛生学の発展に寄与するため、基礎的な実験や職域をフィールドとした疫学研究から実務で経験された好事例なども含めた広い範疇の投稿を受け入れ、掲載に向けて検討を行う。

1. 投稿は原則として日本産業衛生学会会員に限る。
2. 原稿は未発表のものに限る。
3. 人を対象とする研究報告はヘルシンキ宣言 (1964 年採択, 1975 年修正, 2002, 2004, 2008, 2013 年改訂) の精神に則ったものでなくてはならない。
4. 実験動物を用いた研究報告は各施設の動物実験指針に則って行われたものとする。
5. 投稿原稿の種類は次のとおりとする。

総説：ひとつのテーマに関連する多くの研究論文総括、評価、解説。

原著：研究結果、研究方法、研究材料、自他の研究成績の解釈等において新知見または創意が含まれているもの、およびこれに準ずるもの。

短報：原著と同じ性格で速報的に書かれたもの。

事例：産業衛生学的に興味のある症例や労働諸条件改善事例などの報告。

調査報告：産業衛生に関する実態調査などの報告でデータ自体が利用価値を有しているもの。

資料：本学会の委員会、研究会などが集約した意見書、報告書、およびこれに準ずるもの。

編集者への手紙：掲載論文に対する意見など。

話題：産業衛生に関する最近の話題、その他会員の自由な意見。

6. 投稿原稿の採否は編集委員会で最終的に決定する。
7. 本誌に掲載された論文等の著作権は日本産業衛生学会に帰属する。
8. 原稿の様式は次のとおりとする。

(1)原稿は和文とし、オンライン投稿システム (<http://www.ipec2.com/sanei/form/form1.php>) から PDF で投稿する。

User ID : johsubmit

Password : johipec

(2)原稿は原則としてワードプロセッサを用い A4 用紙 40 字 × 30 行 (1,200 字) 横書きとする。左余白に行番号を入れる。総説、原著および調査報告には英文抄録 (400 語以内) およびその和訳文をつける。抄録は、目的 (Objectives)、対象と方法 (Methods)、結果 (Results)、考察と結論 (Conclusions) などの見出しを入れた構造化抄録とする。

(3)原稿の表紙には表題、40 文字以内のランニングタイトル、著者名、所属機関名、代表著者の通信先 (以上和英両文)、原稿の種類、表および図の数を書く。

(4)短報および事例は図表を含め刷り上がり 4 頁以内とする。(表紙を除き図表を含め A4 用紙 750 字詰

10 枚、ただし図表は一点を 0.5 枚とみなす。)

- (5)キーワード (英語で 6 語以内) は、総説、原著、調査報告では英文抄録のあとに、また短報、事例では、表紙の英文タイトルのあとにつける。
- (6)図表中の文字と説明は英文もしくは和文で統一して作成する。原図は縮小製版できるような鮮明なものとする。図表は一表一図ごとに別の A4 用紙を用い、挿入する箇所を本文の欄外に明確に指定する。
- (7)単位記号は次の例示に従う: km, m, cm, mm, μm , nm, \AA ; kg, g, mg, μg ; l, ml, μl ; yr (年), mo (月), wk (週), d (日), h (時), min (分), s (秒), ms, μs . JIS Z 8203 参照。
- (8)文献は引用順に番号をつけて最後に一括し、下記の記載例の形式で記す。本文中にも、「…知られている¹⁾。または、…^{2,3)}、…¹⁻⁵⁾」のように文献番号をつける。著者が 7 名以上の場合には最初の 3 名を記し、あとは「ほか」(英文の引用では et al) とする。
- (9)地方会・研究会の一般口演抄録は本文 400 字以内とする。

[記載例]

<学術雑誌>著者名、表題、雑誌名、発行年 (西暦): 巻: 頁-頁。

1) 佐藤章夫, 遠藤和志, 金子 誉, 米原郁美. 有機溶剤の生物学的暴露モニタリングに影響を与えている環境および生理的要因. 産業医学 1991; 33: 3-16.

2) Omae K, Nakashima H, Takebayashi T, et al. No-effect level of subacute tetraethoxysilane inhalation on the mouse kidney. J Occup Health 1995; 37: 1-4.

<単行本>著者名、表題、編者名、書名、発行所所在地: 発行所、発行年 (西暦): 引用頁-頁。

3) 千代谷慶三, けい肺, 三浦豊彦, 池田正之, 小山内博, ほか編. 現代労働衛生ハンドブック. 川崎: 労働科学研究所出版部, 1988: 723-6.

4) Rosenberg J. Effects of medications on biological levels of industrial chemicals. In: Fiserova-Bergerova V, Ogata M, eds. Biological monitoring of exposure to industrial chemicals. Cincinnati: ACGIH, 1990: 159-62.

<オンライン>

5) International Council on Archives. ISAD(G): General International Standard Archival Description. [Online]. 1994 [cited 1997 Sep 2]; Available from: URL: <http://www.archives.ca/ica/isad.html>

上記の記載例は Uniform Requirements of Manuscripts Submitted to Biomedical Journals に準じた。雑誌名略記は Index Medicus 参照。

9. 掲載料は刷り上がり 6 頁までは学会負担、超過分 (1 頁当たり約 10,000 円) は著者負担とする。
10. 別刷は 50 部まで無料。超過分は著者負担とする (総説、原著、調査報告は 50 部まで 5,000 円、50 部増すごとに 5,000 円増。短報、事例は 50 部まで 2,500 円、50 部増す毎に 2,500 円増。表紙付は部数にかかわらず 5,000 円増とする)。希望部数は校正の際に明記する。
11. 著者校正は 1 回とする。
12. 原稿は、なるべく産業衛生学雑誌ホームページからリンクされている投稿システムを利用して送付すること。本文・図・表は、1 つの PDF ファイルにまとめること。PDF ファイルのみ受け付け可能とする。

13. 産業衛生学雑誌は、査読プロセスを迅速化するため、6つの専門領域からなるフィールドを設定している。投稿の際、当該論文が扱う領域としてふさわしいフィールドを2つまで選択し、表紙に記載すること。

フィールド	取り扱う内容例
化学物質ばく露／中毒学	化学物質に関する中毒学：実験研究・疫学研究・ばく露評価・生物学的モニタリング、石綿、じん肺。
物理的要因／人間工学	ワークステーション・作業態様・作業条件と筋骨格系障害・疲労などの健康影響、職場の物理的環境・安全に関する研究、産業疲労、労働生理
メンタルヘルス／心理社会的要因	労働者のメンタルヘルスとその関連要因に関する研究。職場の心理社会的要因とその健康影響に関する研究。
産業保健活動／産業保健職	産業保健職の役割や諸活動、産業保健活動に関連する事項、労働安全衛生マネジメントシステム、中小企業における活動など。
健康増進	労働者の健康問題の予防（メンタルヘルス、化学的要因、物理的要因以外）に関する研究：生活習慣病対策、感染症対策、口腔保健などに関する研究。
疫学	大規模疫学研究、労働者の健康問題のトレンド、国際比較研究、その他労働者を対象として行われる新しいリスクファクターや疫学的方法論を用いた研究。

投稿システムをご利用になれない場合は編集部にご相談下さい。やむを得ず郵送で投稿される場合でも、CDやUSB等のメディアで保存したMicrosoft Word形式の原稿データファイルを、論文受理時にご提出いただく必要があります。

問合先・送付先：joh-edit@ipecc-pub.co.jp

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-12

(株)アイベック内「産業衛生学雑誌」編集部

◇編集後記◇

新編集委員会になって間もなく2年が過ぎようとしています。堤委員長主導でフィールドエディター制が導入され、各編集委員の努力により、これが軌道に乗ったと評価できるのではないかと思います。一方、査読の遅れから投稿者にご迷惑をおかけすることも皆無ではない現状にも向き合わなければならないとも感じています。

産衛誌、JOHは日本産業衛生学会という公益社団法人が責任を持つ雑誌である点はいわゆる商業誌と一線を画す重要な特徴であると考えています。学会は研究者の研究発表を主要な役割とするとともに、勤労者の職業起因性疾患の予防と健康増進の実践活動の発展を目指しているものであり、本誌及びJOHはこの原点を見失うことなく、質の高い情報の発信源となることを目指して、広く投稿を呼びかけるとともに、査読にも力を入れています。お忙しい方々に査読をお願いするのは誠に心苦しいところもありますが、学会の原点に関わることで、多くの会員が負担を分かち合いつつ、学会の目的を達成する大事な活動です。投稿が増えるほど査読は大変になりますが、学問的に正確で、必要によっては教育的な査読を行うことが雑誌と学会全体の発展につながることを考え、内外から査読者の確保に努めることも必要と感じています。

JOHについていえばアジア発信の国際誌としての特色も鮮明にしなければなりません。また、国際的な動向を見れば、近いうちにオープンアクセスジャーナル化に関する議論を始めなければならなくなるでしょう。JOHの将来のあり方が産衛誌の今後にかなりの影響を及ぼすこととなります。

産衛誌は和文誌として研究発表という主要な役割に加え、学会運営に関する広報、許容濃度に関する情報提供、さらに教育的資料提供、会員の交流の場としての役割があり、学会の公益性を実現する上で欠かせないものになっています。

一昔前に比べ、産業保健の実践をめぐっては様々な団体や独立行政法人が活動し、各種の講習会、セミナーなどが盛んにおこなわれるようになりました。そんな状況の中でも、本誌は学問的な裏付けを持った情報提供ができるという特色があります。会員の方々からの投稿が上述の産衛誌の役割の遂行と社会への貢献を支えることとなります。積極的な投稿とともに編集委員会へのご意見もいただければ幸いです。

(柴田英治)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：堤 明純（北里大）

副委員長：柴田英治（愛知医大）

編集委員：市原 学（東京理科大）、今井鉄平（アズビル(株)）、梅津美香（岐阜県立看護大）、榎原 毅（名古屋市立大）、大神 明（産業医大）、大塚泰正（広島大）、影山隆之（大分看護大）、小島原典子（東京女子医大）、挂本知里（東京有明医療大）、上島通浩（名古屋市立大）、萱場一則（埼玉大）、車谷典男（奈良医大）、近藤尚己（東京大）、榊原久孝（名古屋大）、佐々木美奈子（東京医療保健大）、島津明人（東京大）、須賀万智（東京慈恵医大）、杉森裕樹（大東文化大）、諏訪園靖（千葉大）、高尾総司（岡山大）、巽 あさみ（浜松医大）、田中 茂（十文字学園女子大）、玉腰暁子（北海道大）、中田光紀（産業医大）、中村裕之（金沢大）、西田和子（久留米大）、野見山哲生（信州大）、原田浩二（京都大）、平工雄介（三重大）、廣 尚典（産業医大）、藤野善久（産業医大）、堀口兵剛（北里大）、三宅達郎（京都市保健福祉局）、毛利一平（ひらの亀戸ひまわり診療所）、森岡郁晴（和歌山医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（岡山大）、大和 浩（産業医大）

客員編集委員：田中紀子（国立国際医療研究センター）、八幡勝也（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番